

令和 3 年 度
航 空 旅 客 動 態 調 査

報 告 書

<日集計表>

令和 5 年 5 月
国 土 交 通 省 航 空 局

令和3年度 航空旅客動態調査 報告書
＜ 日集計表 ＞

目 次

第1部 調査概要

1.航空旅客動態調査について	1-1
2.調査内容.....	1-1
3.調査対象.....	1-4
4.調査方法.....	1-4
5.調査実施日	1-4
6.調査票回収状況.....	1-4
7.日別集計表：利用に際しての留意事項について.....	1-6

第2部 平日調査集計結果

平日 表1 OD表（空港間純流動）	2-1
平日 表2 OD表（空港間総流動）	2-9
平日 表3 OD表（県間流動）	2-17
平日 表4 空港別出発地・目的地・現住所	2-21
平日 表5 空港別出発旅客数・到着旅客数・乗り換え旅客数.....	2-151
平日 表6 OD別旅行目的.....	2-153
平日 表7 OD別旅行日数.....	2-159
平日 表8 OD別旅行行程.....	2-165
平日 表9-1 路線別利用航空券の種類	2-171
平日 表9-2 路線別利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳）	2-177
平日 表9-3 OD別利用航空券の種類	2-183
平日 表9-4 OD別利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳）	2-189
平日 表10 OD別乗り換え空港	2-195
平日 表11-1 出発空港別最終アクセス手段・到着空港別最初イグレス手段・駐車場利用の有無.....	2-209
平日 表11-2 出発空港別代表アクセス手段・到着空港別代表イグレス手段.....	2-219
平日 表12 出発空港別アクセス所要時間・乗り換え回数	2-229
平日 表13 出発空港別アクセス経費	2-233
平日 表14 出発空港別見送り人数・空港滞留時間	2-237
平日 附表 路線別内際乗継利用回答状況（国内線→国際線）	2-241

第3部 休日調査集計結果

休日 表 1	OD表（空港間純流動）	3-1
休日 表 2	OD表（空港間総流動）	3-9
休日 表 3	OD表（県間流動）	3-17
休日 表 4	空港別出発地・目的地・現住所	3-21
休日 表 5	空港別出発旅客数・到着旅客数・乗り換え旅客数	3-153
休日 表 6	OD別旅行目的	3-155
休日 表 7	OD別旅行日数	3-161
休日 表 8	OD別旅行行程	3-167
休日 表 9-1	路線別利用航空券の種類	3-173
休日 表 9-2	路線別利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳）	3-179
休日 表 9-3	OD別利用航空券の種類	3-185
休日 表 9-4	OD別利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳）	3-191
休日 表 10	OD別乗り換え空港	3-197
休日 表 11-1	出発空港別最終アクセス手段・到着空港別最初イグレス手段・駐車場利用の有無	3-211
休日 表 11-2	出発空港別代表アクセス手段・到着空港別代表イグレス手段	3-221
休日 表 12	出発空港別アクセス所要時間・乗り換え回数	3-231
休日 表 13	出発空港別アクセス経費	3-235
休日 表 14	出発空港別見送り人数・空港滞留時間	3-239
休日 附表	路線別内際乗継利用回答状況（国内線→国際線）	3-243

第1部
調 査 概 要

1. 航空旅客動態調査について

航空旅客動態調査（以下、本調査と呼称する）は、わが国における国内航空旅客の流動パターン（出発地・出発空港・乗換空港・目的空港・目的地）、航空旅客の属性・旅行目的・個人属性、空港のアクセス・イグレスの実態、国際線との乗り継ぎ状況等の基礎的データについての調査を行うことにより、国内線航空旅客の流動特性を把握し、今後の航空行政を検討するための基礎資料を得ることを目的としている。なお、調査は統計法に基づく一般統計調査として、国土交通省航空局が国内航空各社のご協力を頂きながら実施をしているものであり、第1回の昭和48年調査より、隔年での実施を基本とし、令和3年度調査は第26回次の調査となっている。

2. 調査内容

本調査は、以下に示す調査項目にて構成しており、各設問は次頁の調査票見本に示すとおりである。本調査は、「平日調査」と「休日調査」の2回を実施しているが、いずれも全く同一の調査票を用いて実施している。ただし、双方の調査票を区別するため、平日調査票は黒色、休日調査票は濃青色にて印字した調査票を用いて実施している。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| (1) 出発地 | (8) 旅行目的等 |
| (2) 空港アクセス実態 | ① 旅行目的 |
| ① 利用交通手段 | ② 旅行日数 |
| ② 所要時間 | ③ 旅行行程（往復行程の相違） |
| ③ 経費 | ④ 国際線利用の有無と国際線乗り換え空港 |
| ④ 空港滞留時間 | ⑤ 同行者数 |
| ⑤ 自家用車、社用・公用車での来港者の駐車場利用の有無 | ⑥ 見送り人数 |
| (3) 出発空港 | (9) 個人属性 |
| (4) 利用航空券の種類・座席の種類 | ① 性別 |
| (5) 乗継空港・到着空港 | ② 年齢 |
| (6) 到着空港イグレス交通手段 | ③ 職業 |
| (7) 目的地 | ④ 年収（税込み） |
| | ⑤ 現住所・国 |
| | ⑥ 家族同行者の属性（性別・年齢・職業・年収） |

令和3年度 航空旅客動態調査 調査票 見本 (2)

問3-1: ご搭乗便の出発空港及び到着空港をご記入下さい。
(出発空港) (到着空港) (最終乗継先空港) (次目的地)

※飛行機を乗り継ぐために陸路を移動する場合は、その前後の空港 (例えば伊丹空港、神戸空港、羽田空港等)

問3-2: ご搭乗されている便の航空券の種類をお答え下さい。
What is your ticket type?

1. 普通運賃 Normal fare
2. 往復割引 Round-trip discount
3. 乗継割引 Transit discount
4. マイレージ特典 Milesage
5. 回数券 Coupon tickets
6. 団体運賃・パッケージツアー等 Package tours
7. その他割引運賃(割引、先払い、バーゲン等) Others discount

《1、2、3、7を選択された方》
(If you chose 1,2,3,7)

問3-3: ご搭乗されている便の座席の種類をお答え下さい。
What is your seat type?

1. 普通席 Economy
2. 普通席以外(ファーストクラス、クラスJ、JAL、プレミアムクラス、ANA等) First/Business etc

※ご搭乗便の座席の種類をお答え下さい。
(How much is your one way ticket?)

問4-1: ご搭乗便の到着空港から次目的地までの交通機関を、利用予定の順にご記入下さい。 ※国内線を乗り継ぐ方は、最終乗継先空港から次目的地までの交通機関をご記入下さい。

ご搭乗便の到着空港 (問3-1) → 1次交通機関番号を記入 → 2次交通機関番号を記入 → 3次交通機関番号を記入 → 4次交通機関番号を記入 → 5次交通機関番号を記入 → 6次交通機関番号を記入 → 7次交通機関番号を記入 → 8次交通機関番号を記入 → 9次交通機関番号を記入 → 10次交通機関番号を記入 → 次目的地 (問4-2)

※交通機関番号は問2-2の選択肢をご参照ください。

※4. 国際線乗継便の方は、日本出国時に記入して下さい。

問4-2: 次の目的地はどこですか。
※次の目的地とは、現在ご搭乗便の到着空港後、最初に立ち寄りになる乗継先(空港、バス停、駅、港、海は除く)になります。

1. 現住所(自宅等)が次の目的地
2. 現住所以外が次の目的地

都道府県 市区町村

《 次の目的地の住所がわからない方 》
・ 次の目的地の市町村名、観光地名等をご記入下さい。
・ 次の目的地が海外の方は国名をご記入下さい。

3 質問は裏面に続きます

問5: あなたご自身や同行されているご家族についてお聞きします。

問5-1: あなたご自身の現住所についてお答え下さい。(Question5-1. What is your current address?)
<日本にお住まいの方 For Japan residents only>

現住所 Address 市区町村 City/District Ward/Town/Village
都道府県 Prefecture

問5-2: 3才以上の旅行者の人数をお答え下さい。(あなたご自身、ご家族以外も含みます)。

<日本以外にお住まいの方 For Non-Japan residents only>

お住まいの国 Country of Residence 国籍 Nationality

問5-3: ご自身の性別・年齢・職業・年収をご本人欄に番号でご記入下さい。
※家族1から家族5の欄には、同行されているご家族(現住所が同一の方)についてご記入下さい。

性別	1. 男	2. 女	選	択	1	2	3	4	5						
年齢	1. 14歳以下	2. 15~19歳	3. 20~24歳	4. 25~29歳	5. 30~34歳	6. 35~39歳	7. 40~44歳	8. 45~49歳	9. 50~54歳	10. 55~59歳	11. 60~64歳	12. 65~69歳	13. 70~74歳	14. 75~79歳	15. 80歳以上
職業	1. 管理職(役員・管理職員)	2. 専門・技術・事務関係職業	3. 販売・サービス関係職業	4. 農林畜産関係職業	5. 生産・運輸関係職業	6. その他の職業	7. 中学生以下	8. 高校生以上の学生	9. 主婦・主夫(職業従事者を除く)	10. 無職					
年収	1. なし	2. 100万円未満	3. 100~199万円	4. 200~299万円	5. 300~399万円	6. 400~499万円	7. 500~699万円	8. 700~999万円	9. 1,000~1,499万円	10. 1,500~1,999万円	11. 2,000万円以上				

* 年収についての設問は、旅客の平均的な年収を算出することにより、航空利用者全体の時間に対する価値観(時間価値)を計算し、航空政策の参考とするためにお聞きしています。

問5-4: 空港までのお見送りの方についてお答え下さい。(小学生以上)

1. 見送りはない
2. 見送りがあった → 人

ご協力ありがとうございます。
Thank you for your cooperation on this important survey.

3. 調査対象

本調査は、調査実施日に運航する、国内線定期便及び定時運航する不定期便を利用する、全航空旅客を対象としている。

4. 調査方法

本調査の調査方法は、国内航空各社（21社）からのご協力を得て、原則として客室乗務員が調査対象者（航空旅客）に、航空機内において調査票を配布・回収する形式にて行っている。

ただし、機内での配布・回収が困難な航空便（フライト時間が短い、客室乗務員が乗務しない等々）においては、搭乗口にて配布・機内で回収を行う方法や、あらかじめ座席に調査票をセットして機内で回収する方法、搭乗手続き時に職員が調査票を配布・搭乗前に回収を行う方法等を用いている。

5. 調査実施日

本調査は、平日と休日の旅客流動特性の違いを把握するため、平成17年度より平日調査と休日調査の2回（各1日）を行っている。

令和3年度調査においては、調査日を「令和3年11月7日（日）【休日調査】」、「11月10日（水）【平日調査】」と設定して実施した。なお、平日運航便のうち、水曜日に運航のない曜日運航便については、11月11日（木）、12日（金）のいずれかの運航日を調査実施日としている。

また、翌週の同じ曜日を調査予備日として設定し、天候不良等で調査を実施できなかった一部の航空便に対して、再調査を行っている。

6. 調査票回収状況

調査実施日における平日・休日調査別の旅客実績及び回収調査票数等は、次ページの表に示すとおりである。

令和3年度 航空旅客動態調査 平日・休日調査別旅客実績・調査票回収結果

	平日調査						休日調査						計					
	提供座席数	旅客数	搭乗率	回収数	回収率	(C/B)	提供座席数	旅客数	搭乗率	回収数	回収率	(C/B)	提供座席数	旅客数	搭乗率	回収数	回収率	(C/B)
	(A)	(B)	(B/A)	(C)	(C/B)	(C/B)	(A)	(B)	(B/A)	(C)	(C/B)	(C/B)	(A)	(B)	(B/A)	(C)	(C/B)	(C/B)
日本航空株式会社・JALグループ会社 (JAIR・JTA・HAC・JAC・RAC)	98,431	56,844	57.8%	35,347	62.2%		108,905	72,757	66.8%	49,871	68.5%		207,336	129,601	62.5%	85,218	65.8%	
ANAグループ2社 (ANA・ANK)	88,515	50,941	57.6%	34,169	67.1%		101,761	68,888	67.7%	49,541	71.9%		190,276	119,829	63.0%	83,710	69.9%	
スカイマーク株式会社 (SKY)	25,488	13,467	52.8%	9,479	70.4%		26,904	19,325	71.8%	14,296	74.0%		52,392	32,792	62.6%	23,775	72.5%	
株式会社AIRDO (ADO)	10,836	5,194	47.9%	3,892	74.9%		11,682	8,158	69.8%	6,250	76.6%		22,518	13,352	59.3%	10,142	76.0%	
株式会社ソラシドエア (SNT)	13,410	6,363	47.4%	4,337	68.2%		13,584	8,010	59.0%	5,570	69.5%		26,994	14,373	53.2%	9,907	68.9%	
Peach Aviation 株式会社 (APJ)	21,780	12,661	58.1%	7,593	60.0%		23,040	17,734	77.0%	8,541	48.2%		44,820	30,395	67.8%	16,134	53.1%	
ジェットスター・ジャパン株式会社 (JJP)	13,680	9,896	72.3%	6,658	67.3%		14,400	11,865	82.4%	8,026	67.6%		28,080	21,761	77.5%	14,684	67.5%	
株式会社スターフライヤー (SFJ)	7,200	4,277	59.4%	2,600	60.8%		7,350	5,405	73.5%	3,113	57.6%		14,550	9,682	66.5%	5,713	59.0%	
アイベックスエアラインズ株式会社 (IBX)	4,200	2,528	60.2%	1,143	45.2%		4,340	3,279	75.6%	1,869	57.0%		8,540	5,807	68.0%	3,012	51.9%	
株式会社フジドリームエアラインズ (FDA)	6,904	2,899	42.0%	2,225	76.8%		6,904	4,406	63.8%	3,761	85.4%		13,808	7,305	52.9%	5,986	81.9%	
スプリング・ジャパン株式会社 (SJO)	0	0	—	0	—		1,134	653	57.6%	438	67.1%		1,134	653	57.6%	438	67.1%	
新中央航空株式会社 (CIK)	456	374	82.0%	334	89.3%		380	253	66.6%	221	87.4%		836	627	75.0%	555	88.5%	
オリエントエアーブリッジ株式会社 (ORC)	2,174	1,394	64.1%	886	63.6%		2,252	1,600	71.0%	1,048	65.5%		4,426	2,994	67.6%	1,934	64.6%	
天草エアライン株式会社 (AMX)	480	152	31.7%	108	71.1%		480	226	47.1%	193	85.4%		960	378	39.4%	301	79.6%	
東邦航空株式会社 (TAL)	90	63	70.0%	40	63.5%		81	53	65.4%	41	77.4%		171	116	67.8%	81	69.8%	
合計	293,644	167,053	56.9%	108,811	65.1%		323,197	222,612	68.9%	152,779	68.6%		616,841	389,665	63.2%	261,590	67.1%	

7. 日集計表：利用に際しての留意事項について

令和3年度の調査結果について、平日調査・休日調査の別に、第2部「平日調査 集計結果」・第3部「休日調査 集計結果」として、集計表（表1から表14）をそれぞれ整理している。また、次頁以降の各項目において、各表の読み方や利用に際して特に留意する必要がある点を記載するものである。

なお、本表に掲載するいずれの集計表も、本調査に対して回答をした旅客数（回答数）を集計したものである点に留意されたい。

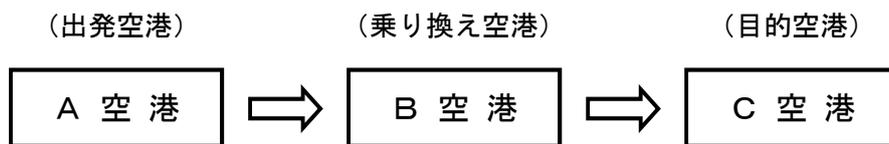
表1 OD表（空港間純流動表）

表1は、回答者の調査実施日における空港間の純流動ベースでのODを示した表であり、国内線の乗継の有無にかかわらず、回答者の出発地側の利用空港（出発空港）と目的地側での利用空港（目的空港）の2地点間のトリップ（目的を持った移動）に絞った集計表である。このため、表1の総トリップ数と回答者数は一致する。

以下の例に示すとおり、調査実施日にA空港を出発してB空港で国内線を乗りつぎ、最終的にC空港に至った旅客は、その途中における乗り換えの有無にかかわらず、[A空港] → [C空港] のトリップを行った旅客として集計される。

このため、純流動ベースのOD表においては、航空路線が開設・運航されていない空港間における流動も集計される。

例 （乗り換えを1回行った場合）



目的空港 出発空港	目的空港		
	A	B	C
A	0	0	1
B	0	0	0
C	0	0	0

この場合、A空港からC空港への移動としてカウントされる。

表2 OD表（空港間総流動表）

表2は、調査実施日の各路線における回答者数について集計したものであり、空港間の総流動ベースのOD表である。

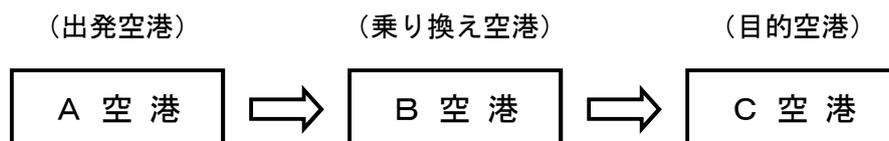
空港間総流動は、一人の回答者が複数路線を乗りついだ場合にも、利用した各々の路線に一人ずつを計上する点において、表1（空港間純流動表）と異なっている。

以下の例に示すとおり、A空港を出発し、B空港で国内線を乗りつぎ、最終的にC空港に至った旅客は、[A空港] → [B空港] の区間を1トリップ、乗りつぎ先の [B空港] → [C空港] の区間を1トリップの計2トリップとして集計される。

したがって、空港間総流動ベースのOD表では、原則として航空路線が開設・運航されている空港間の流動が集計される。ただし、国内線を乗り継ぐ為に、地上交通機関を利用して空港間を移動した場合（成田－羽田間等）も表2の集計値に含むものである。

例

（乗り換えを1回行った場合）



目的空港 出発空港	A	B	C
A	0	1	0
B	0	0	1
C	0	0	0

この場合、A 空港から B 空港、B 空港から C 空港への移動がそれぞれカウントされる。

表3 OD表（県間流動表）

表3は、回答者の出発地（出発空港側）・目的地（到着空港側）の移動の観点から、都道府県間における流動量を集計したものであり、純流動ベースのOD表である。

すなわち、回答者がどの都道府県（出発地）からどの都道府県（目的地）への移動に際して航空路を利用したのかについて集計したものであり、航空路の存在しない都道府県間の流動も存在する。また、都道県内々の空港を結ぶ航空路線があるため、同一都道県内々の流動も存在している。

なお、調査実施日において、国際線から国内線への乗りつぎ（または、その逆）を行った回答者については、「海外」を出発地（または、目的地）として集計をしている。また、出発地・目的地が無回答や不明な回答の場合には、「不明」として集計をしている。

表4 空港別 出発地・目的地・現住所

表4は、回答者が利用した出発空港（または目的空港）について、空港を点とした利用範囲の広がりに着目して集計をしたものである。集計項目は、当該空港で国内線に搭乗した回答者の出発地、降機した回答者の目的地（と乗降した回答者の合計値）、並びに当該空港における乗降者の現住所地を示している。

なお、国内線を乗り継いだ回答者は、出発空港と目的空港について集計し、乗継空港の利用は集計に含まない。このため、表1（空港間純流動表）の各空港の出発／到着回答者数と表4の集計値は一致する。

例) 表4 空港別 出発地・目的地・現住所（羽田空港）

東京国際（羽田）

休日 表4 空港別 出発地・目的地・現住所 (34)

単位：人

地区名	出発旅客数（出発地）	%	到着旅客数（目的地）	%	合計（乗降旅客数）	%	乗降者の現住所	%
東京都								
千代田区	863	1.5	857	1.5	1,720	1.5	235	0.2
中央区	1,152	2.0	1,016	1.8	2,168	1.9	658	0.6
港区	1,991	3.5	1,451	2.6	3,442	3.1	1,041	0.9
新宿区	1,345	2.4	1,045	1.9	2,390	2.1	875	0.7
文京区	611	1.1	633	1.1	1,244	1.1	697	0.6
台東区	518	0.9	425	0.8	943	0.8	410	0.4
墨田区	371	0.7	434	0.8	805	0.7	508	0.4
江東区	755	1.3	619	1.1	1,374	1.2	1,179	1.0

項目	内容
○出発旅客数 （出発地）	<ul style="list-style-type: none"> 羽田空港発の国内線に搭乗した回答者の「出発地」について、市区郡（または、町村）別に人数を集計したものである。「出発地」とは、調査当日の回答者のトリップにおいて、羽田空港に向けて移動を始めた地点である。なお、羽田空港にて国内線を乗り継いだ回答者は、表4の集計値に含まない（例：新千歳 発→羽田 乗継→那覇 着など）。 上記の例では、千代田区を出発地としてから羽田空港の出発便に搭乗した回答者が863人であったことを示している。 <p>※羽田空港を出発した各回答者の到着地については、各々の目的空港における「到着旅客数（目的地）」の項目に集計される。</p>
○到着旅客数 （目的地）	<ul style="list-style-type: none"> 羽田空港着の国内線を降機した回答者の「目的地」について、市区郡（または、町村）別に人数を集計したものである。「目的地」とは、羽田空港から先の回答者のトリップにおける目的地を意味している。なお、羽田空港で降機後、別の国内線を乗り継いだ回答者は表4の集計値には含まない（例：新千歳 発→羽田 乗継→那覇 着など）。 上記の例では、羽田空港に到着した回答者のうち、千代田区を目的地とする回答者が857人であったことを示している。 <p>※羽田空港に到着した各回答者の出発地については、各々の出発空港における「出発旅客数（出発地）」の項目に集計される。</p>
○合計（乗降旅客数）	「出発旅客数（出発地）」と「到着旅客数（目的地）」の項目の合計値を示している。
○乗降者の現住所	<ul style="list-style-type: none"> 羽田空港を利用した回答者の現住所地について、市区郡（または、町村）別に人数を集計したものである。なお、羽田空港で国内線を乗り継いだ回答者は表4の集計値には含まない。 上記の例では、羽田空港を利用した回答者のうち、235人が千代田区を現住所地と回答したことを示している。

表5 空港別 出発旅客数・到着旅客数・乗継旅客数

表5は、各空港における回答者の国内線乗継利用の割合を示すものである。表中の「出発旅客数(A)」「到着旅客数(B)」は表1（空港間純流動表）による空港別回答者数（各空港を出発空港・目的空港とする回答者数）である。また、各空港内で国内線間の乗継利用をした回答者数を(D)欄にて示し、国内線を乗り継ぐ為に他空港との地上移動を行った回答者は(D)欄に含まず、外部乗継者数として(E)欄に記載している。

例) 表5 空港別 出発旅客数・到着旅客数・乗り換え旅客数

平日 表5 空港別 出発旅客数・到着旅客数・乗り換え旅客数 (1)

空港名	出発旅客数 (A)	到着旅客数 (B)	合計 (C)		乗継旅客数 (D) (当空港内)	外部乗継者数 (E) (当空港外)	取扱旅客数 (F) (C) + [(D)*2] + (E)	乗継旅客率 % (D) * 2 ÷ (F)
			(A)+(B)					
稚内	91	157	248		0	0	248	0.0
釧路	771	621	1,392		0	0	1,392	0.0
函館	1,654	1,882	3,536		13	0	3,562	0.7
旭川	797	885	1,682		0	0	1,682	0.0
帯広	594	530	1,124		0	0	1,124	0.0
丘珠	134	134	268		5	3	281	3.6
新千歳	16,132	14,658	30,790		249	3	31,291	1.6
青森	924	971	1,895		1	0	1,897	0.1

単位：人

-
- 出発旅客数 (A)
 - 表1（空港間純流動表）による、純流動ベースの空港別出発回答者数。
※(D)、(E)欄と重複しない。

 - 到着旅客数 (B)
 - 表1（空港間純流動表）による、純流動ベースの空港別到着回答者数。
※(D)、(E)欄と重複しない。

 - 乗継旅客数 (D)
(当空港内)
 - 当空港において国内線間の乗継を行った回答者数。

 - 外部乗継者数 (E)
(当空港外)
 - 当空港と周辺の別空港との間で、国内線を乗り継ぐ為に陸上を移動した回答者数。(D)欄の外数。
例) 新千歳空港内で国内線を乗り継いだ回答者は249人。別途、周辺空港との間を地上移動した回答者が3人。

 - 取扱旅客数 (F)
 - 調査実施日における当該空港を利用した回答者の合計。但し、(D)欄を乗降の別で計上するために、2倍した数字を(F)欄に計上している。また、(E)欄は一方が当該空港外となるため、片側のみ計上する。

 - 乗継旅客率
 - 当該空港を利用した回答者数全体に対する、国内線間の乗継利用の割合。

表6 OD別 旅行目的

表6は、空港間純流動ベース（表1）による空港間ODペア別に、旅行目的の状況を集計したものである。

空港間ODペアは、直行便の運航がある平日調査236区間・休日調査240区間、並びに直行便が運航していないが、20件以上の空港間ODが確認された区間について記載し、20件未満の場合には、「その他OD」にまとめて記載するものである（以降、表7・8・9-3・9-4・10も同様）。

表7 OD別 旅行日数

表7は、空港間純流動ベース（表1）による空港間ODペア別に、旅行日数の状況を集計したものである。併せて、「日帰り」以外の旅客については、本調査を受けた日が旅行中の何日目であるのか、集計して示している。

「調査を受けた日（宿泊を伴う旅客）」の合計欄の人数は、旅行日数の合計欄の人数から日帰りの人数を除いた値と一致する。

例) 表7 OD別旅行日数

OD名	日帰り	旅行日数						不明	合計	調査を受けた日（宿泊を伴う旅客）						不明	合計							
		%	1泊2日	%	2泊3日	%	3泊4日			%	4泊5日以上	%	1日目	%	2日目			%	3日目	%	4日目	%	5日目以上	
羽田-新千歳	592	7.3	2,642	32.6	2,591	32.0	1,010	12.5	1,273	15.7	298	8,406	3,635	54.2	1,182	17.6	1,037	15.5	394	5.9	463	6.9	1,103	7,814
羽田-伊丹	927	17.8	1,885	36.1	1,345	25.8	514	9.8	550	10.5	160	5,381	2,178	57.0	781	20.5	493	12.9	181	4.7	186	4.9	635	4,454
羽田-関西	196	16.6	417	35.2	328	27.7	138	11.7	105	8.9	56	1,240	489	56.4	176	20.3	114	13.1	55	6.3	33	3.8	177	1,044
羽田-福岡	876	9.8	3,126	34.9	2,529	28.3	1,003	11.2	1,415	15.8	367	9,316	4,037	56.1	1,304	18.1	984	13.7	373	5.2	493	6.9	1,249	8,440
羽田-那覇	291	6.3	719	15.5	1,375	29.7	1,076	23.3	1,164	25.2	263	4,888	2,022	53.0	333	8.7	572	15.0	477	12.5	410	10.7	783	4,597
成田-新千歳	154	10.5	368	25.2	408	27.9	201	13.8	330	22.6	78	1,539	618	54.5	136	12.0	153	13.5	82	7.2	145	12.8	251	1,385
関西-成田	115	9.2	416	33.2	439	35.1	125	10.0	157	12.5	74	1,326	534	54.0	199	20.1	176	17.8	28	2.8	51	5.2	223	1,211
成田-福岡	89	5.9	414	27.7	469	31.3	204	13.6	321	21.4	100	1,597	642	54.0	187	15.7	168	14.1	64	5.4	127	10.7	320	1,508
成田-那覇	10	1.6	97	15.4	207	32.9	153	24.3	162	25.8	107	736	280	50.8	46	8.3	101	18.3	67	12.2	57	10.3	175	726
伊丹-新千歳	82	6.0	282	20.6	444	32.4	304	22.2	260	19.0	45	1,417	612	51.8	137	11.6	220	18.6	98	8.3	115	9.7	153	1,335

表8 OD別 旅行行程

表8は、空港間純流動ベース（表1）による空港間ODペア別に、旅行行程の復路〔帰り〕に利用する予定の交通機関（復路に調査を受けた回答者は、往路〔行き〕に利用した交通機関）の状況について集計をしたものである。

表9-1 路線別 利用航空券の種類

表9-2 路線別 利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳）

表9-1は、旅客が回答をした搭乗便（路線）における「利用航空券の種類」、並びに「座席の種類」について集計している。利用航空券の種類は、調査票の選択肢に従い“普通運賃”、“往復割引”、“乗継割引”、“マイレージ特典”、“回数券”、“団体運賃・パッケージツアー等”、“その他割引運賃”の区分にて集計している。

表9-2は、“その他割引運賃”について、具体的な航空運賃の回答結果を基に、回答者搭乗便の普通運賃（令和3年11月時点）に対する割引率を算出した上で、7区分にて集計をしている。また、普通運賃が複数存在する路線については*印を示し、表中の金額は代表として大手航空会社（JAL / ANA グループ）の普通運賃（運航が無い場合はより高額の運賃）を掲載している。

例) 表9-1 路線別 利用航空券の種類

平日 表9-1 路線別 利用航空券の種類 (1)

単位：人

路線名	航空券の種類										座席の種類			合計								
	普通運賃	%	往復割引	%	乗継割引	%	マイレージ特典	%	回数券	%	団体・ﾊﾞｯｸﾞ	%	その他割引運賃		%	不明	普通席	%	普通席以外	%	不明	合計
羽田-新千歳	2,439	30.8	985	12.4	74	0.9	663	8.4	44	0.6	1,393	17.6	2,326	29.4	785	8,709	6,804	86.6	1,052	13.4	853	8,709
羽田-伊丹	1,217	24.0	773	15.3	22	0.4	705	13.9	98	1.9	580	11.4	1,672	33.0	403	5,470	3,910	77.8	1,114	22.2	446	5,470
羽田-関西	331	29.8	116	10.4	3	0.3	165	14.9	11	1.0	105	9.5	380	34.2	139	1,250	1,041	92.8	81	7.2	128	1,250
羽田-福岡	2,712	31.4	1,088	12.6	55	0.6	694	8.0	37	0.4	1,290	14.9	2,765	32.0	739	9,380	7,357	85.5	1,251	14.5	772	9,380
羽田-那覇	1,207	26.5	500	11.0	19	0.4	573	12.6	12	0.3	899	19.8	1,337	29.4	524	5,071	3,540	78.2	989	21.8	542	5,071
成田-新千歳	788	60.4	141	10.8	2	0.2	4	0.3	0	0.0	87	6.7	283	21.7	235	1,540	1,266	98.4	20	1.6	254	1,540
関西-成田	814	72.2	113	10.0	2	0.2	4	0.4	0	0.0	21	1.9	173	15.4	197	1,324	1,115	99.6	4	0.4	205	1,324

例) 表9-2 路線別 利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳）

平日 表9-2 路線別 利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳） (1)

単位：人

路線名	令和3年11月普通運賃	その他割引										その他割引合計					
		0~10%	%	11~20%	%	21~30%	%	31~40%	%	41~50%	%	51~60%	%	61%~	%	不明	その他割引合計
* 羽田-新千歳	44,700	41	2.5	68	4.1	145	8.8	299	18.1	291	17.6	340	20.6	469	28.4	673	2,326
* 羽田-伊丹	31,000	13	1.1	28	2.4	55	4.8	229	19.8	316	27.3	261	22.6	255	22.0	515	1,672
* 羽田-関西	25,700	1	0.8	5	3.9	8	6.2	33	25.6	42	32.6	26	20.2	14	10.9	251	380
* 羽田-福岡	48,900	25	1.2	99	4.9	210	10.3	442	21.7	426	20.9	272	13.4	562	27.6	729	2,765
* 羽田-那覇	53,900	10	1.0	19	1.9	34	3.4	87	8.8	98	9.9	131	13.2	610	61.7	348	1,337
* 成田-新千歳	44,700	-	-	-	-	-	-	5	1.9	5	1.9	12	4.6	241	91.6	20	283
* 関西-成田	25,700	1	0.7	1	0.7	1	0.7	8	5.6	12	8.3	21	14.6	100	69.4	29	173

◎例えば、羽田-新千歳を利用した41人は、普通運賃44,700円の0~10%引きの価格の航空券を利用したことを示している。

※なお、本調査は調査票の構造上、複数の国内線を乗り継ぐ場合には乗継先路線の利用航空券種を把握できない。

表9-3 OD別 利用航空券の種類

表9-4 OD別 利用航空券の種類（「その他割引」の割引率の内訳）

表9-3・表9-4は、回答者の利用する空港間OD別に、表9-1・表9-2を集計したものである。ただし、国内線を乗り継ぐ回答者については、利用する空港間ODのうち、最初に搭乗した区間のみが集計対象であり、乗継先の区間については調査対象となっていない。

直行便の無い区間における乗継運賃やパッケージツアーの利用状況の把握等に利用できる。

表 10 OD 別 乗り換え空港

表 10 は、空港間純流動ベース（表 1）による空港間 OD ペアについて、直行便利用と国内線乗継利用の件数、並びに乗継空港について集計したもので、乗継利用の多い順に、上位 3 空港までの名称を掲載している。但し、2 回以上国内線を乗り継いだ回答者については、“2 回乗継”とし、空港名を挙げずに集計している。また、国内線を乗り継ぐ為に、地上交通機関を利用して空港間を移動した場合（成田－羽田間等）も乗り換え回数として集計をしている。

表 11-1 出発空港別 最終アクセス手段 / 到着空港別 最初イグレス手段 / 駐車場利用の有無

表 11-1 は、各空港について、回答者が出発地から出発空港に至るまでに最後に利用した交通手段（最終アクセス手段）、及び目的空港から目的地へ移動する際に、最初に利用する予定の交通手段（最初イグレス手段）について集計をしている。なお、集計区分は調査票に記載の 15 区分にて行っている。

また、最終アクセス手段“自家用車”の回答者については、駐車場利用の有無について、“空港内（空港内の駐車場に停めている）”、“近辺（空港外の近くの駐車場に停めている）”、“無し（同乗者が乗って帰った）”の 3 区分にて集計をしている。

表 11-2 出発空港別 代表アクセス手段 / 到着空港別 代表イグレス手段

表 11-2 は、各空港のアクセス手段、イグレス手段として回答された複数の交通手段について、優先順位の高い交通手段を代表手段として集計している。交通手段の優先順位は下記のとおりとした。

【順位設定】（航空）>（軌道系交通）>（船舶）>（道路交通）>（その他）

選択肢：1. 国際線>2. 新幹線>3. 有料特急>4. JR 在来線>5. 私鉄・地下鉄>6. モノレール>7. 船>8. 空港直行バス>9. 高速バス>10. 貸切・観光バス>11. 路線バス・市内電車>12. タクシー・ハイヤー>13. レンタカー>14. 自家用車等>15. その他

表 12 出発空港別アクセス所要時間・乗り換え回数

表 12 は、各空港について、回答者が出発地から出発空港に至るまでに要した所要時間の合計（アクセス所要時間）と、アクセス交通の乗換回数について集計をしたものである。

表 13 出発空港別アクセス経費

表 13 は、各空港について、回答者が出発地から出発空港に至るまでに要した費用の合計（アクセス経費）について集計したものである。なお、公共交通機関だけでなく、自家用車等の利用者も集計に含んでいる。

表 14 出発空港別見送り人数・空港滞留時間

表 14 は、各空港について、回答者「1人当たりの見送り人数」と、出発空港に到着してから搭乗便出発までの「空港滞留時間」について集計したものである。

回答者「1人当たりの見送り人数」は、「見送り人数（問 5-4）」÷「本人含む同行者数（問 5-2）」として計算したものである。

【参考】

表 15-1 空港間移動の手段

表 15-2 空港間移動の所要時間

表 15-3 空港間移動の経費

表 15 は、海外から国際線を利用して成田空港・関西空港・中部空港のいずれかの国際空港に到着した回答者のうち、国際線到着空港とは異なる空港から国内線に搭乗した回答者を対象として、空港間の地上移動の状況を集計したものである。集計は下記の 4 区間について行っている。

【集計区間】

- ① 海外発 → (国際線) → 成田空港 → (地上移動) → 羽田空港 → (国内線) → 国内各空港
- ② 海外発 → (国際線) → 関西空港 → (地上移動) → 伊丹空港 → (国内線) → 国内各空港
- ③ 海外発 → (国際線) → 関西空港 → (地上移動) → 神戸空港 → (国内線) → 国内各空港
- ④ 海外発 → (国際線) → 中部空港 → (地上移動) → 小牧空港 → (国内線) → 国内各空港

<集計対象区間>

<本調査を受けた区間>

【参考】 附表 1 路線別内際乗継利用回答状況（海外→国内線乗継）

【参考】 附表 2 路線別内際乗継利用回答状況（国内線→海外乗継）

附表 1 / 附表 2 は、国内線と国際線の乗継利用の状況について集計したものであり、海外を出発地、もしくは海外を目的地とした回答者に着目した集計表としている。

附表 1 は、海外を出発地とする回答者の「国際線到着空港」と、乗り継いだ先の国内線（路線名）について示している。なお、国内線を複数区間乗り継ぐ場合には、最初に搭乗する路線を集計している。

附表 2 は、海外を目的地とする回答者の「国際線出発空港」と、最後に利用する国内線（路線名）について示している。すなわち、国内線を複数区間乗り継いだ場合には、最後に搭乗予定の路線を集計している。

例) 附表 1 海外→国内線乗継

例) 附表 2 国内線→海外乗継

着 発	乗継先国内線/行き先空港名								
	釧路	函館	旭川	帯広	紋別	女満別	新千歳	青森	三沢
新千歳発 国内線計							85	23	14
国際線到着 空港内訳							28	7	5
不明							5		
仙台発 国内線計							2		
国際線到着 空港内訳							2		
不明									
成田発 国内線計							114		
国際線到着 空港内訳							112		
不明							2		
羽田発 国内線計	4	20	7	7	1	9	85	23	14
国際線到着 空港内訳	4	15	4	5		9	28	7	5
不明		5	2	2	1		52	16	5
不明			1				5		
中部発 国内線計							32		

例えば、

左に例示する赤丸は、海外を出発地とし、羽田発新千歳行きの国内線を利用した回答者 85 名のうち、28 名は成田、52 名は羽田に国際線で到着したと回答し、5 名の国際線到着空港名が不明であったことを示している。

国内線 目的空港	国内線出発空港(最終利用区間の搭)								
	釧路	函館	旭川	帯広	紋別	女満別	新千歳	青森	三沢
新千歳着 国内線計							2		
国際線出発 空港内訳							2		
不明									
成田着 国内線計							80		
国際線出発 空港内訳							74		
不明							1		
羽田着 国内線計	15	20	20	5	7	83	20	4	
国際線出発 空港内訳	4	12	5	3	5	29	14		
不明	11	15	2	2	46	6	4		
不明		1				8			
中部着 国内線計			4			11			
国際線出発 空港内訳			4			10			
不明						1			
伊丹着 国内線計									

例えば、

左に例示する赤丸は、海外を目的地とし、旭川発羽田行きの国内線を利用した回答者 20 名のうち、5 名は成田、15 名は羽田から国際線に搭乗すると回答したことを示している。

附表 1 / 附表 2 共に、日本籍・外国籍を合わせた集計結果であるが、調査票は一部の設問(問 1, 問 3-2、問 3-3、問 5-1)を除いて日本語のみで質問を行っており、日本語を理解できない場合には、国際線利用空港を回答出来ない点に留意する必要がある。

※本年度調査時点(2021 年 11 月)においては、海外からの帰国時に、出発国に関わらず一定日数の隔離期間が設けられていたことから、一般の航空旅客が海外からの到着日に国内線に直接乗り継ぐことは原則不可能であった。そのため、海外発と答えた回答に関しては、例えば調査日以前に海外より到着し、一定の隔離期間後に国内線を利用しているなどの旅客による誤記であり、設問での意図と異なる回答をしていることから、出発地を不明とした。以上より、海外出発旅客の集計は不可能であるため、表 15-1 ~ 3 及び附表 1 については作成できない。

なお、附表 2 については作成しており、本報告書においては附表 2 を「附表」と表記している。

【参考】各集計表の集計範囲

調査日において、回答者 N が下図の様な動きをした場合、その行動は次頁に示すように集計される。

(回答者 N の動き)

- C 県に在住の回答者 N が、A 県 a 市を出発し、B 県の X 空港にて国内線（第 1 区間）に搭乗し、Y 空港で国内線（第 2 区間）を乗りつぎ、C 県の Z 空港で降機後、陸上交通で目的地 C 県 c 市に移動した場合。

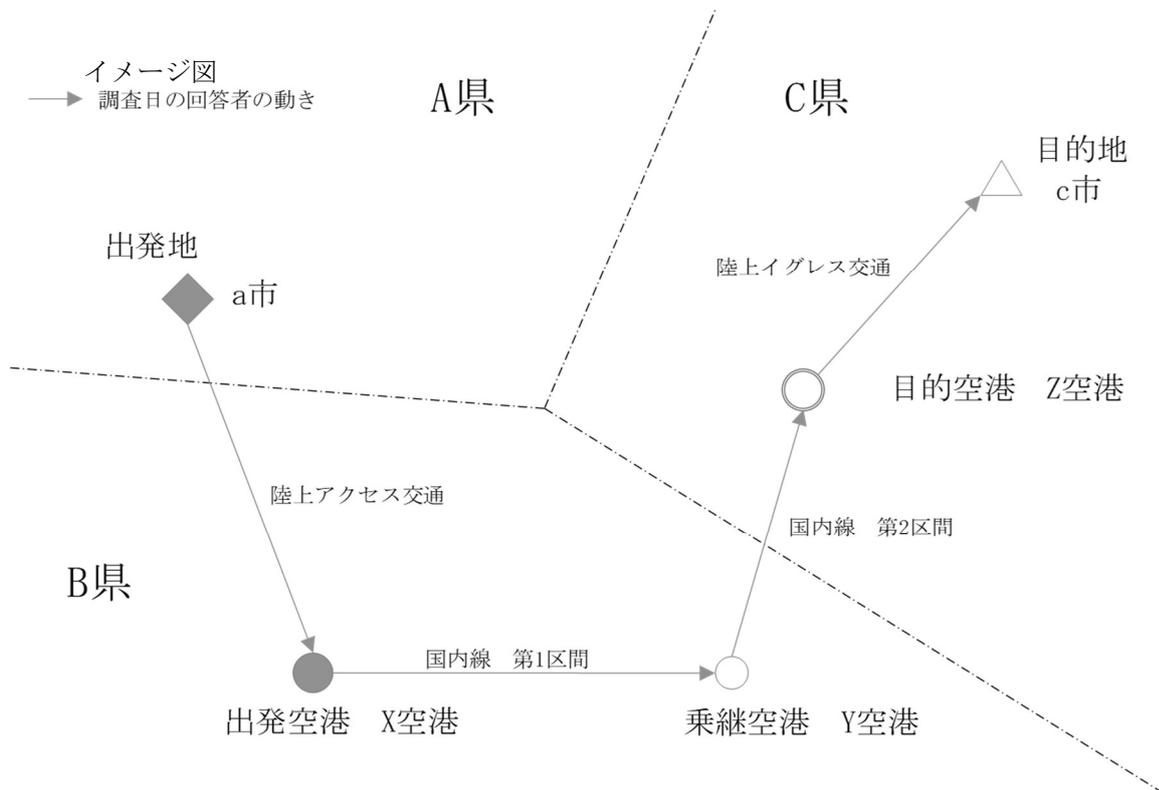


表1 空港間純流動表

- X 空港→Z 空港への移動を1トリップとして集計。

表2 空港間総流動表

- X 空港→Y 空港、Y 空港→Z 空港への移動をそれぞれ1トリップ、計2トリップとして集計。

表3 県間流動表

- A 県→C 県への移動を1トリップとして集計。

表4 空港別 出発地・目的地・現住所地

- A 県 a 市を X 空港の出発地として集計。回答者 N の現住所として C 県を集計。
- C 県 c 市を Z 空港の目的地として集計。回答者 N の現住所として C 県を集計。

表5 空港別 出発旅客数・到着旅客数・乗換旅客数

- 回答者 N は、X 空港の出発客、Y 空港の乗り換え客(×2)、Z 空港の到着客として集計される。

表6 OD 別旅行目的／表7 OD 別旅行日数／

表8 OD 別旅行行程

- 回答者 N の旅行目的／日数／行程は、空港間 OD (X 空港発 Z 空港着) の情報として集計される。

表9-1、9-2 路線別利用航空券の種類／その他割引率の内訳

- 回答者 N の利用航空券の種類・割引率の情報は、X 空港-Y 空港路線(国内線第1区間)の情報として集計される。

表9-3、9-4 OD 別利用航空券の種類／その他割引率の内訳

- 回答者 N の利用航空券の種類・割引率の情報は、X 空港-Z 空港間 OD の情報として、X-Y 空港間の利用券種等の情報が集計される。

表10 OD 別乗り換え空港

- 回答者 N は、X 空港~Z 空港間の流動に対する、Y 空港乗継利用者として集計される。

表11 出発空港別最終アクセス手段・到着空港別最初イグレス手段・駐車場利用の有無

- 回答者 N のアクセス交通手段と駐車場利用の有無は、X 空港の情報として集計される。また、利用したイグレス交通は Z 空港のものとして、集計される。

表12 出発空港別アクセス所要時間・乗り換え回数／表13 出発空港別アクセス経費／表14 出発空港別見送り人数・空港滞留時間

- 回答者 N のアクセス所要時間、乗り換え回数、経費、見送り人数、空港滞留時間は、いずれも空港 X の情報として集計される。

回答者属性 単純集計表 (性別・年齢・職業・年収・現住所)

アイテム	カテゴリ	平日調査		休日調査	
		サンプル数	構成比	サンプル数	構成比
性別	男性	65,714	64.0	77,829	53.7
	女性 (不明)	37,003 6,094	36.0 -	67,233 7,717	46.3 -
年齢	合計	108,811	100.0	152,779	100.0
	14歳以下	2,806	2.7	7,833	5.4
	15～19歳	1,220	1.2	3,542	2.4
	20～24歳	5,960	5.8	9,351	6.5
	25～29歳	7,290	7.1	13,145	9.1
	30～34歳	7,170	7.0	11,101	7.7
	35～39歳	7,622	7.4	10,348	7.1
	40～44歳	8,809	8.6	11,069	7.6
	45～49歳	11,280	11.0	14,322	9.9
	50～54歳	12,845	12.5	17,740	12.2
	55～59歳	11,544	11.2	15,939	11.0
	60～64歳	10,035	9.8	12,769	8.8
	65～69歳	7,392	7.2	8,423	5.8
	70～74歳	5,330	5.2	5,607	3.9
75～79歳	2,039	2.0	2,206	1.5	
80歳以上	1,276	1.2	1,536	1.1	
(不明)	6,193	-	7,848	-	
合計	108,811	100.0	152,779	100.0	
職業	管理的職業	24,684	24.3	24,224	17.0
	専門・技術・事務関係職業	22,184	21.8	39,303	27.5
	販売・サービス関係職業	15,404	15.2	16,346	11.4
	農業漁業関係職業	1,053	1.0	1,114	0.8
	生産・運輸関係職業	3,003	3.0	4,255	3.0
	その他の職業	11,921	11.7	20,330	14.2
	中学生以下	2,251	2.2	6,557	4.6
	高校生以上の学生	3,817	3.8	7,482	5.2
	主婦・主夫	9,341	9.2	14,299	10.0
	無職	7,904	7.8	8,958	6.3
	(不明)	7,249	-	9,911	-
	合計	108,811	100.0	152,779	100.0
	なし	11,117	11.6	20,780	15.5
	100万円未満	6,048	6.3	9,199	6.9
100～199万円未満	5,315	5.5	8,075	6.0	
200～299万円未満	7,452	7.7	11,413	8.5	
300～399万円未満	8,754	9.1	13,733	10.3	
400～499万円未満	8,963	9.3	13,209	9.9	
500～699万円未満	13,854	14.4	18,367	13.7	
700～999万円未満	15,289	15.9	17,762	13.3	
1000～1499万円未満	11,608	12.1	12,804	9.6	
1500～1999万円未満	3,293	3.4	3,832	2.9	
2000万円以上	4,522	4.7	4,555	3.4	
(不明)	12,596	-	19,050	-	
合計	108,811	100.0	152,779	100.0	

アイテム	カテゴリ	平日調査		休日調査	
		サンプル数	構成比	サンプル数	構成比
現住所	北海道	8,733	8.4	12,278	8.4
	青森県	377	0.4	680	0.5
	岩手県	248	0.2	282	0.2
	宮城県	1,399	1.4	1,789	1.2
	秋田県	322	0.3	580	0.4
	山形県	312	0.3	430	0.3
	福島県	311	0.3	542	0.4
	茨城県	1,433	1.4	2,052	1.4
	栃木県	586	0.6	877	0.6
	群馬県	387	0.4	644	0.4
	埼玉県	4,976	4.8	6,640	4.6
	千葉県	6,550	6.3	7,988	5.5
	東京都	21,530	20.8	31,841	21.9
	神奈川県	10,015	9.7	14,593	10.0
	新潟県	392	0.4	575	0.4
	富山県	138	0.1	236	0.2
	石川県	286	0.3	527	0.4
	福井県	113	0.1	191	0.1
	山梨県	224	0.2	305	0.2
	長野県	369	0.4	562	0.4
岐阜県	588	0.6	755	0.5	
静岡県	816	0.8	1,272	0.9	
愛知県	4,089	4.0	6,413	4.4	
三重県	483	0.5	700	0.5	
滋賀県	449	0.4	695	0.5	
京都府	1,256	1.2	1,734	1.2	
大阪府	7,821	7.6	10,800	7.4	
兵庫県	4,353	4.2	6,210	4.3	
奈良県	781	0.8	963	0.7	
和歌山県	485	0.5	463	0.3	
鳥取県	262	0.3	280	0.2	
島根県	361	0.3	480	0.3	
岡山県	506	0.5	703	0.5	
広島県	1,077	1.0	1,506	1.0	
山口県	574	0.6	752	0.5	
徳島県	327	0.3	599	0.4	
香川県	524	0.5	705	0.5	
愛媛県	952	0.9	1,335	0.9	
高知県	550	0.5	715	0.5	
福岡県	6,882	6.7	8,901	6.1	
佐賀県	445	0.4	740	0.5	
長崎県	1,286	1.2	2,017	1.4	
熊本県	1,492	1.4	2,187	1.5	
大分県	739	0.7	1,159	0.8	
宮崎県	990	1.0	1,374	0.9	
鹿児島県	2,163	2.1	2,605	1.8	
沖縄県	4,074	3.9	5,683	3.9	
海外	351	0.3	222	0.2	
(不明)	5,434	-	7,199	-	
合計	108,811	100.0	152,779	100.0	

